

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある」

項目	前回（3年1月判断）	今回（3年4月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡

（注）令和3年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直しつつあるものの、足下では感染症の急拡大の影響により減少している。生産活動は、生産用機械や電子部品・デバイス等が上昇しているなど持ち直している。雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（3年1月判断）	今回（3年4月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつあるものの、足下では新型コロナウイルス感染症の急拡大の影響により減少している	➡
生産活動	持ち直しつつある	持ち直している	➡
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある	➡
設備投資	2年度は前年度を上回る見込みとなっている	2年度は前年度を下回る見込みとなっている	➡
企業収益	2年度は減益見込みとなっている	2年度は減益見込みとなっている	➡
住宅建設	前年並みとなっている	前年を下回っている	➡
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	➡

【先行き】

先行きについては、感染拡大の防止策や各種政策の効果、海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されるが、今般の緊急事態宣言発出に伴う経済活動への影響をはじめ、国内外における今後の感染症の動向、金融資本市場の変動の影響等を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直しつつあるものの、足下では新型コロナウイルス感染症の急拡大の影響により減少している」

百貨店・スーパー販売は、スーパーでは飲食料品を中心に売上が堅調に推移しているものの、百貨店では、一時的に持ち直しの動きがみられたなかで、足下における感染症の急拡大の影響等により客足が再び減少するなど、厳しい状況が継続している。コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、住宅街などの店舗では売上が堅調に推移しているものの、都市部や繁華街などの店舗では客足が戻りきらず厳しい状況が継続している。ホームセンター販売は、レジャー用品や園芸用品の需要等により売上が堅調に推移している。家電販売は、新生活需要等からパソコンを中心に売上が堅調に推移している。乗用車の新車登録届出台数は、客足の回復等により堅調に推移している。旅行取扱の状況は、感染症の影響から、足下においても厳しい状況が継続している。

(主なヒアリング結果)

- 3月は、自粛に対する反動等の影響もあってか目に見えて週末の来店客数は増加し、売上にも持ち直しの動きがみられていた。こうしたなか、足下では第4波の影響から来店客数が減少しており、先行きが再び懸念される状況となっている。(百貨店・大企業)
- 昨年の特需の反動で前年比はマイナスだが、感染拡大前と比較すれば水準は高くなっており、足下においても、客足や販売が落ちている感じはなく、飲食料品を中心に売上は好調を維持している。(スーパー・大企業)
- 住宅地店舗は在宅勤務や外出自粛による需要増加から冷凍食品等が伸長し好調な一方、オフィスや繁華街の店舗は足下では回復してきてはいるものの、客数は戻りきらず厳しい状況が継続。(コンビニエンスストア・大企業)
- 都市型商店街や駅構内、観光地等の店舗は、外出自粛や在宅勤務の増加に伴う来客数の減少から売上は落ち込んでいるが、住宅地の店舗などでは、日用品や飲食料品を中心に少し単価の高い商品が売れるなど堅調さを維持している。(ドラッグストア・大企業)
- 感染者数増加に伴う外出自粛の影響から、旅行・外食への消費が家電にシフトしており客数・実績は好調。また、新生活需要は例年より好調で、特にパソコンを中心に新生活用家電(洗濯機、冷蔵庫、レンジ等)が例年を上回る売上で推移している。(家電量販店・大企業)
- 売上・販売台数はコロナ前の水準以上にまで回復してきている。最近では自動車の快適さを求めて少し高級なクラスへの買い替えが多くなってきている。(自動車販売店・中小企業)
- 足下においても全体の業況としては大変厳しい状況。3月以降、近場や自然の多い地域を中心に予約数は伸びてきているが、今後の感染拡大状況に大きく左右されるため、極めて不透明。(旅行代理店・大企業)
- 足下においても時短営業の影響があるなか、感染動向により来店客数に影響が生じることから、先行きが見通せない。(飲食・大企業)

■ 生産活動 「持ち直している」

鉱工業指数(生産)で見ると、輸送機械などが低下しているものの、半導体や電子部品等の需要増加から生産用機械や電子部品・デバイスなどが上昇しており、生産活動は持ち直している。

- 5G基地局やスマホ、AIなど半導体需要は拡大しており、半導体製造装置の受注は好調。(卸売・大企業)
- 電子部品は、車載向けの需要が回復傾向なほか、コロナ禍でデータ通信量の増加に伴いデータセンターの投資が伸びていることなどからコンデンサ等の受注が好調。(電気機械・大企業)
- 国土強靱化計画を受けた需要の増加が継続しているほか、自動車向け製品の受注が好調。建築向け製品はこれまで低調であったが、工事の遅れを取り戻す形で回復してきている。(鉄鋼・大企業)

■ 雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある」

完全失業率は前年を上回って推移している一方、有効求人倍率は下げ止まりの動きがみられるなど、雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある。

- 施工管理を行う建築技術職は、業界のニーズが非常に高く、慢性的に不足している。(建設・大企業)
- 足下で需要が回復しているため、派遣社員を増員して対応している。(輸送機械・中小企業)
- 感染症の影響により都市部の店舗を閉鎖しているが、非正規社員について、最近では店舗閉鎖により人員削減を行うのではなく、近隣店舗への異動により雇用を維持している。(ドラッグストア・中小企業)
- 感染症の影響による生産の減少を受けて、一部事業所で一時休業を実施しているが、足下では生産量が回復しており、一時休業の措置は解除する見込み。(鉄鋼・大企業)

- **設備投資「2年度は前年度を下回る見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和3年1～3月期
 - 製造業では、電気機械などが前年度を下回っているものの、鉄鋼、化学などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、建設などが前年度を上回っているものの、金融・保険、情報通信などが前年度を下回っていることから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

➢ 自動車用ハイテン鋼板やアルミパネルの生産増強投資を計画。（鉄鋼・大企業）
 ➢ 前年度に、建物取得など大規模な設備投資を実施したことによる反動減。（金融・保険・大企業）

- **企業収益「2年度は減益見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和3年1～3月期
 - 製造業では、輸送用機械、繊維など、ほとんどの業種で減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、運輸・郵便、建設など、ほぼ全ての業種で減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

- **住宅建設「前年を下回っている」**
 - 新設住宅着工戸数でみると、持家が増加しているものの、分譲マンションなどが減少していることから、前年を下回っている。

➢ 戸建・分譲住宅は住宅展示場への来場者数が減少しているなかで、オンラインでの住宅販売は伸びている。マンションについては都市部を中心に顧客の購入判断が慎重になっており、厳しい状況となっている。（建設・大企業）

- **輸出「前年を上回っている」**
 - 管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、中国向けのプラスチックやアメリカ向けの建設用・鉱山用機械などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和3年1～3月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、3年4～6月期は、全産業では「下降」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等や市町村などで増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、住居などが上昇しているものの、食料などが下落していることから、前年を下回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年を下回っている。

3. 各府県の総括判断

	前回（3年1月判断）	今回（3年4月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しつつあるものの、足下では感染症の急拡大の影響により減少している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は下げ止まりつつある。
京都府	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は下げ止まりの兆しがみられるものの、弱い動きとなっている。
兵庫県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は一部に弱さがみられ、持ち直しのテンポが緩やかになっている。生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は弱い動きとなっている。
奈良県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は弱い動きとなっている。
和歌山県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は弱い動きとなっている。
滋賀県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつあり、生産活動は回復しつつある。雇用情勢は下げ止まりつつある。